

肺炎球菌予防接種 説明書

予防接種を受けられる方は、安全に接種を行うために、事前にこの説明書を必ずご一読ください。

●肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみを介して飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に健康な状態でも常に菌を保有しており（常在菌）、普段は症状がありません。しかし、風邪や加齢により免疫力が低下した際などに菌が体内に侵入し、気管支炎、肺炎、さらには敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

●肺炎球菌ワクチンの効果

肺炎球菌には100種類以上の型（血清型）があり、今回の接種で使用する「プレベナー20（沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン）」は、そのうち主要な20種類を対象としています。この20種類は、成人の侵襲性肺炎球菌感染症^(※)の原因の約5～6割を占めると報告されています。本ワクチンの接種により、この型を原因とする感染症はもちろん、肺炎球菌による侵襲性感染症全体の3～4割程度の予防効果があるという研究結果が得られています。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

●予防接種を受けることができない方

- ① ジフテリア予防接種で以前にひどいアレルギー反応（アナフィラキシー）が出たことが確実な方
- ② 接種当日、明らかに発熱（37.5℃以上）のある方
- ③ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した方

●予防接種を受ける際に注意を要する方

以下に該当する場合は、かかりつけ医がいる場合にはかかりつけ医のいるところで接種を受けるか、診断書または意見書をもらってから接種に行きましょう。

- ① 免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患を有する方
- ③ 予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状が出たことがある方
- ④ 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ⑤ 接種予定の接種液に含まれる成分や、ジフテリア予防接種に対してアレルギー反応が出るおそれのある方
- ⑥ 血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方

●肺炎球菌ワクチンの副反応

ワクチン接種後に、以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ごくまれに全身のかゆみや息苦しさなどの「アナフィラキシー」や、さらに進行すると血圧が下がって意識が遠のく「ショック状態」になることがあります。

ごくまれな反応ですが、接種後に少しでも気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

(添付文書より厚生労働省にて作成)

発現割合	主な副反応
30%以上	痛み（触ると痛むこともあります）※（59.6%）、筋肉痛（38.2%）、体のだるさ（30.3%）
10%以上	頭痛（21.7%）、筋肉痛（11.6%）
1%以上	赤み（赤い斑点）、はれ（ぷっくり膨らむ）

※ワクチンを接種した部位の症状

●接種を受けた後の注意点

- ① **安静に**：接種後 30 分程度は、急な体調の変化に備え、会場で安静にしてください。
- ② **揉まない・押さえる**：このワクチンは「筋肉内」に注射します。
 - ・接種部位は揉まないでください。（揉むと腫れや内出血の原因になります。）
 - ・血をサラサラにする薬（抗血栓薬）を服用中の方は、内出血防止のため、5分間しっかり押さえてください。
- ③ **当日の過ごし方**：入浴は問題ありませんが、注射した部位をこすらないでください。激しい運動や大量の飲酒は控えてください。

●他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、带状疱疹などの他のワクチンと同時接種が可能です。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

●予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種による副反応で、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残ったりした際、その健康被害が予防接種によるものと認定された場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

副反応が発生した場合は下記へご連絡ください。

●お問い合わせ先●

市民福祉部健康保険課保健予防係	電話	099-248-9421
東市来支所地域振興課健康福祉係	電話	099-274-2113
日吉支所地域振興課健康福祉係	電話	099-292-2113
吹上支所地域振興課健康福祉係	電話	099-296-2113